



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：非同盟諸国首脳会合の開催

(報道取り纏め)

8月26日から31日にかけて、第16回非同盟諸国(NAM; Non-Aligned Movement, 加盟120カ国・地域)会議が、テヘランで開催された。28、29日の外相級協議を経て、30、31日の首脳会議では、シリア情勢が中心議題とされた。

非同盟諸国会議には108カ国の代表が参加し、27カ国・組織がオブザーバーとして参加した。議長国イランは「イラン史上最大の国際会議」(外務省高官)と位置づけ、核問題での国際社会からの孤立脱却を目指し、イランのサーレヒー外相は、開幕演説で、平和的利用が目的のイランの核開発は正当な権利であると述べ、西側諸国による経済制裁を批判した。

首脳会議には約40カ国の首脳の出席が見込まれたが、中でも注目されたのは、国連の潘基文事務総長とエジプトのムルシー大統領であった。8月8日に、エジプト大統領府筋は、ムルシー大統領が非同盟諸国首脳会議に出席すると述べていたが、エジプト首脳によるイラン訪問は、1979年の断交以来初となる。また、国連は8月22日、潘基文事務総長が非同盟諸国首脳会議に出席すると発表、同事務総長は29日から31日までテヘランを訪れ、イランの核開発やシリア問題を巡る懸念をイラン側に伝えるとした。米国とイスラエルがボイコットを求めていることから、同事務総長は両国の反対を押し切って出席したと言える。

なお、8月24日、パレスチナのマアン通信は、ハマースのハニーヤ首相が、非同盟諸国会議の議長国イランから招待されたと報道した。しかし、パレスチナ自治政府のアッバース議長も出席する予定で、自治政府側はパレスチナの代表は自治政府だけであると反発し、ハニーヤ首相が出席する場合は参加しないと警告した。対して、イラン外務省報道官は26日、ハニーヤ首相は招待されていないと発言、結局、ハマースは同26日、ハニーヤ首相の会議への不参加を発表した。

8月31日、非同盟諸国会議は、核の平和利用の権利の支持を明記した共同宣言を採択して閉幕した。同宣言には、核軍縮の必要性、パレスチナ国家樹立への支持、ムスリムに対する嫌悪・差別への批判、などが盛り込まれた。3年後の次回会議の議長国はベネズエラとなる。

イラン国営テレビによると、31日に採択された共同宣言には、イスラエルで収監中のパレスチナ人全員の釈放要求なども盛り込まれた。一方、シリア情勢について国営テレビは何も伝えなかった。議長役のアフマディーネジャード大統領もシリア情勢に言及せず、具体的な合意には達しなかったと言える。31日の首脳会合で演説したエジプトのムルシー大統領が、シリアのアサド政権について、正当性を失った圧制的な政権だと強い口調で批判し、対して、シリアのムアッリム外相が抗議の意味で会場から退席したことなどがその背景にある。

研究員 山崎 和美

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799